

いつも大変お世話になっています。

テロ事件後の課題

今回のいわゆる「イスラム国」の人質事件については、憤りを感じます。同時に、舵取りを少し間違ったら、ややこしい世界に突入してしまう、という危機感も感じます。

外国やテロ集団から危害を加えられた時に、自分たちの総理大臣を責めるのは、愚の骨頂です。まさに、敵の「思うツボ」です。もちろん、国会で事件の経緯や政府の方針を検証することは、議員の当然の義務ですが、個人攻撃は慎むべきです。

ただ、我が国の外交方針として、「テロとの戦い」にどこまで首をつっこむのか。これは冷静に、議論をしなければいけないでしょう。

戦略＝優先順位

どのような大義を掲げようと、テロは唾棄すべき行動です。我が国としても、これに反対することは当たり前です。**問題は、どこまで反対するのか。日本の国力（経済力、軍事力、外交力等）には限界があります。**超大国の米国でさえ、世界で同時に二箇所での戦争はできない、と割り切っているくらいです。

では、我が国にとって、**何が安全保障上の優先順位なのか。**大半の方々は、「**北朝鮮、中国**」と答えるのではないのでしょうか。実際、安倍政権のもとで発表された「国家安全保障戦略」でも、明確にそのように書いてあります。

そして、**米国が元気を失っている中で、日本としてはそれなりに自前の防衛力を強化しなければならない。**今の防衛予算は5兆円程度ですが、中国に対して軍事的に優位に立つためには、最低この2倍の予算が必要となります。

軍事的にも、財政的にも、日本は東アジアの平和を守るだけで「いっぱいいっぱい」なのです。つまり、これ以上、**外交戦線を拡大することは、これまた、愚の骨頂**です。

外交における言葉の「陰影」

外交は同じ主張で、大切なのは言葉と行動の「**陰影**」です。「**テロとの戦い**」はこれまで通り、ほどほどにして、**北朝鮮、中国に専念すべきです。**「罪を償わせる」と総理は興奮していますが、実際に現場で「イスラム国」に空爆をしている国々からすれば、空虚な言葉にすぎません。一方、「イスラム国」にとっては、はったりと受け止められるでしょう。

安倍政権が「罪を償わせる」ために、「テロとの戦い」に軍事的に踏み込むのであれば、これは外交・軍事戦略としては致命傷になる恐れがあります。反対に、これまで通り、**人道支援に徹するのであれば、外交方針としては正しいですが、逆に、はったりは外交では禁物**です。残念ながら、国際社会の価値観では、人道支援で「罪を償わせる」ことは絶対にできません。

憤るお気持ちは察するに余りありますが、我が国としては、より優先的な脅威に総力を傾けるべきです。